令和5年度　財務の概要

福岡北九州高速道路公社

目　　次

１．会計処理の特徴　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１

２．償還準備金積立方式のしくみ　・・・・・・・・・・・・・・・　２

３．収支状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３

４．営業中道路の収支状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５

５．財務状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６

６．償還準備金の積立状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８

７．長期借入金の残高状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９

８．償還計画と実績の対比　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１０

９．キャッシュフロー計算書　・・・・・・・・・・・・・・・・・　１１

１０．料金収入・通行台数・供用延長の推移・・・・・・・・・・・　１２

１１．供用実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１３

1．会計処理の特徴

公社では、財政状態や経営成績を明らかにするため、企業会計原則に準じた会計処理を行っています。

＜根拠法令等＞地方道路公社法、同法施行規則、福岡北九州高速道路公社会計規程、同規程実施細則

有料道路制度の会計の特徴は

- 有料道路制度は、借入金により道路を建設し、お客様からの料金収入により定められた期間内に償還し、償還完了後は無料開放する制度です。
- 毎年度の『収支差』（収入と費用の差）は全て投下資金（借入金）の償還に充当します。

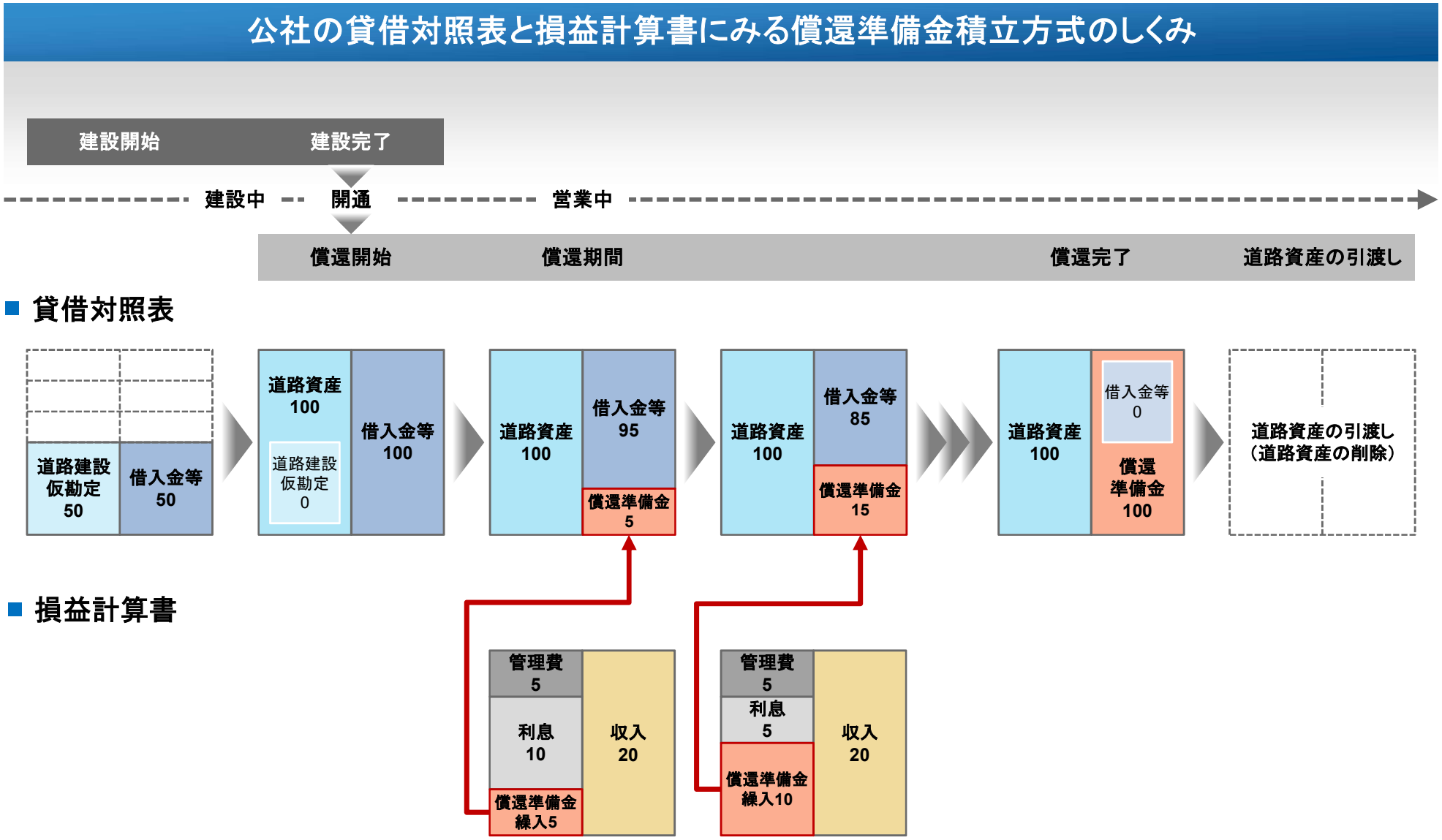
借入金の償還状況を適切に把握するために

- 福岡北九州高速道路公社は、利益を配当する義務がなく、法人税法上の公共法人であるため、法人税を課せられたりすることがなく、収支差の全てを償還に充当します。
- 有料道路制度は、無料開放を実現するとの観点から、借入金の償還状況を会計処理において適切に把握するため、新たな設備投資資金を積み立てるという企業会計上一般に採用されている減価償却費を計上する方式は採用していません。

償還準備金積立方式を採用

- 借入金の償還に充てられる各年度の『収支差』を『償還準備金繰入』として費用計上し、その累計額を『償還準備金』として負債に計上する方式を採用しています。
- 道路の資産を形成するのに要した費用を積み上げた『道路資産』と借入金の返済に充てる『償還準備金』を対比することにより、償還状況が明確に把握できます。

2. 償還準備金積立方式のしくみ



３．収支状況

令和5事業年度損益計算書　（令和5年4月1日から令和6年3月31日まで）

（単位：百万円）

費用の部				収益の部			
勘定科目	R5年度 A	R4年度 B	増減額 A−B	勘定科目	R5年度 A	R4年度 B	増減額 A−B
経常費用	61,348	59,844	1,504	経常収益	61,358	59,867	1,491
事業資産管理費	18,745	20,059	△ 1,314	業務収入	61,179	59,634	1,545
福岡高速道路管理費	13,230	14,612	△ 1,382	道路料金収入	60,537	59,022	1,515
北九州高速道路管理費	5,361	5,309	51	（福岡高速道路）	43,699	42,339	1,361
福岡駐車場管理費	101	83	18	（北九州高速道路）	16,838	16,684	154
北九州駐車場管理費	53	54	△ 2	ETCﾏｲﾚｰｼﾞ還元負担金収入	213	210	3
				（福岡高速道路）	191	188	3
一般管理費	1,610	1,690	△ 80	（北九州高速道路）	22	22	0
一般管理費	1,402	1,504	△ 102	駐車場料金収入	230	233	△ 3
その他	208	186	23	（福岡駐車場）	118	120	△ 3
				（北九州駐車場）	113	113	0
引当金等繰入	37,889	34,855	3,034	その他	199	169	30
道路事業損失補てん引当金繰入	2,752	2,683	69				
（福岡高速道路）	1,986	1,924	62	受託業務収入	135	32	103
（北九州高速道路）	765	758	7	負担金事業受入金	0	1	△ 1
償還準備金繰入	35,137	32,172	2,965				
（福岡高速道路）	26,045	23,388	2,657	業務外収益	44	200	△ 156
（北九州高速道路）	9,093	8,784	308	受取利息	0	0	0
				雑益　他	44	200	△ 156
受託業務費	135	32	103				
負担金事業費	0	1	△ 1				
業務外費用	2,970	3,207	△ 237				
債券利息	2,659	2,721	△ 62				
借入金利息	183	253	△ 70				
雑損　他	129	232	△ 104				
当期利益金	9	23	△ 14				
合計	61,358	59,867	1,491	合計	61,358	59,867	1,491

（注） 端数処理の関係上、合計において合致しない場合があります。

【道路部門】

（１）福岡高速道路

① 経常収益は、440億3，900万円、前年度対比12億3，500万円の増となりました。これは、通行台数が前年度に比べて増えたことにより高速道路料金収入が増加したためです。（通行台数は、前年度に比べ1日当たり5，242台の増加）

② 経常費用（償還準備金繰入を除く）は、179億9，500万円、前年度対比14億2，200万円の減となりました。これは主に、道路修繕費の減により事業資産管理費が減少したためです。

③ 道路事業における収入から管理費と支払利息等を差引いた収支差である償還準備金繰入は、260億4，500万円（対前年度比26億5，700万円の増）となり、道路の建設に投下した借入金の返済に充当しました。

（２）北九州高速道路

① 経常収益は、169億5，200万円、前年度対比1億5，800万円の増となりました。これは、通行台数が前年度に比べて増えたことにより高速道路料金収入が増加したためです。（通行台数は、前年度に比べ1日当たり597台の増加）

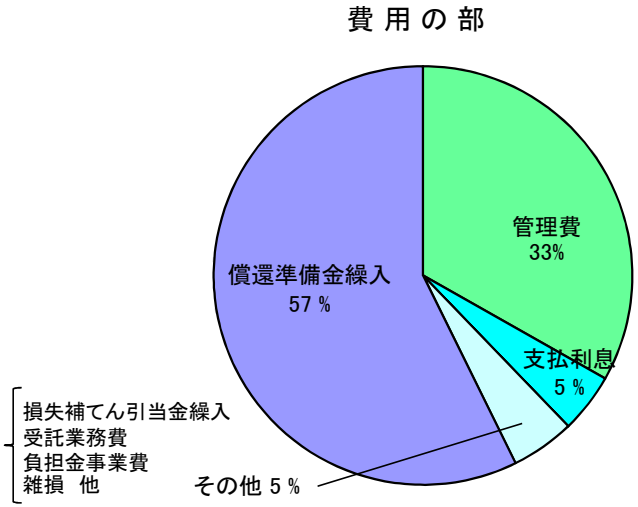
② 経常費用（償還準備金繰入を除く）は、78億6，000万円、前年度対比1億5，000万円の減となりました。これは主に、業務外費用が減少したためです。

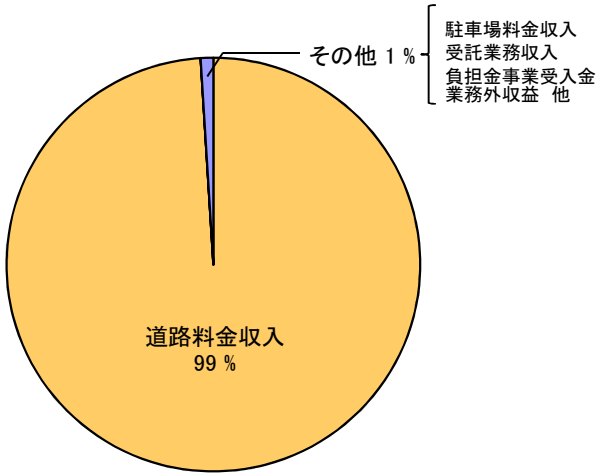
③ 道路事業における収入から管理費と支払利息等を差引いた収支差である償還準備金繰入は、90億9，300万円（対前年度比3億800万円の増）となり、道路の建設に投下した借入金の返済に充当しました。

【駐車場部門】

① 当期利益は900万円（対前年比1，400万円の減）となりました。

☆損益計算書の内訳（道路部門・駐車場部門の合計）





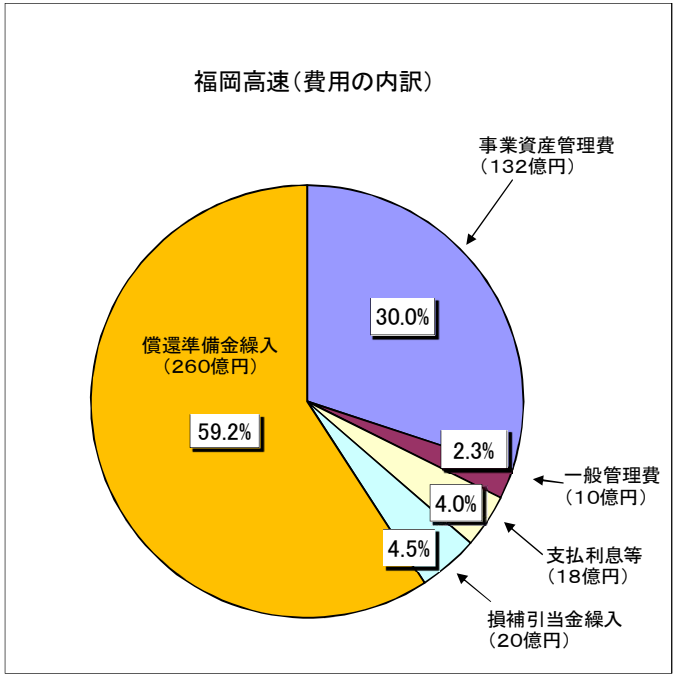
4. 営業中道路の収支状況（収支率）

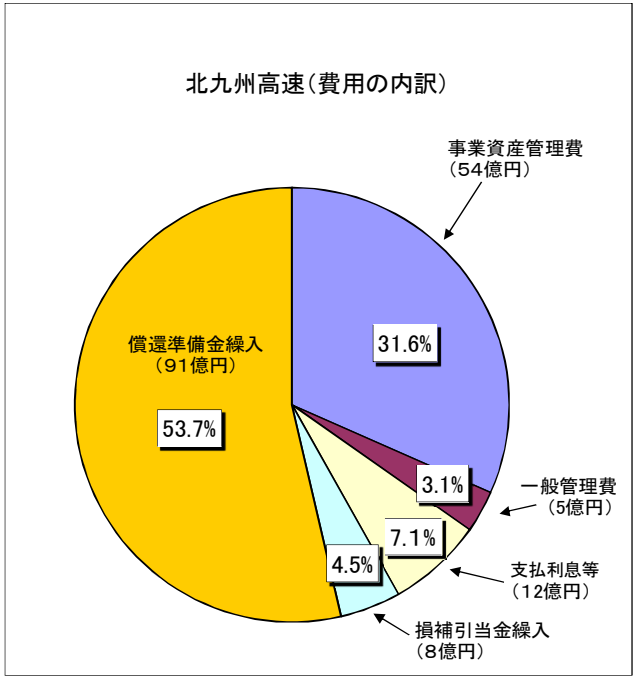
「収支率」は、100円の収入を得るのにどのくらいの費用が必要であったかを示すもの。

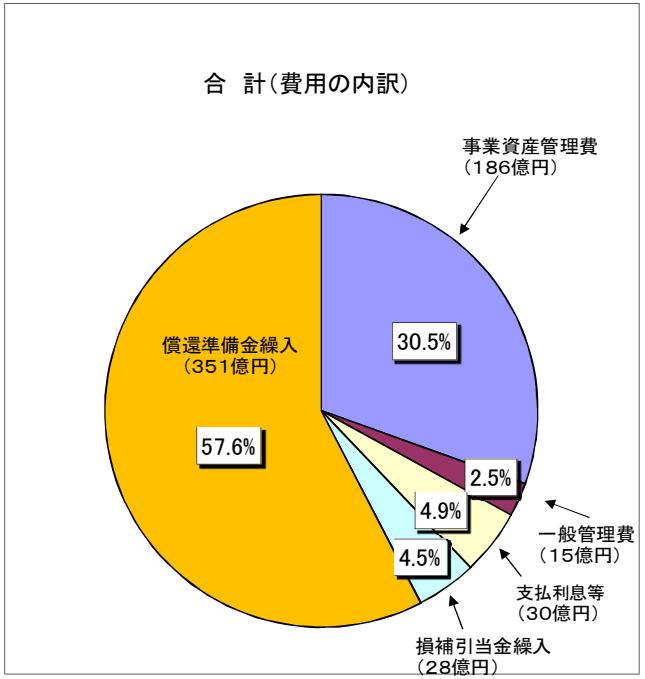
（単位：百万円）

	福岡高速道路								北九州高速道路								合　計							
	収益 A	営業中道路に係る費用					償還準備金繰入額 A−B	収支率 B/A×100	収益 A	営業中道路に係る費用					償還準備金繰入額 A−B	収支率 B/A×100	収益 A	営業中道路に係る費用					償還準備金繰入額 A−B	収支率 B/A×100
		事業資産管理費	一般管理費	支払利息等	損補引当金繰入	計 B				事業資産管理費	一般管理費	支払利息等	損補引当金繰入	計 B				事業資産管理費	一般管理費	支払利息等	損補引当金繰入	計 B		
R05	44,039	13,230	1,013	1,765	1,986	17,995	26,045	40.9%	16,952	5,361	529	1,205	765	7,860	9,093	46.4%	60,992	18,591	1,542	2,970	2,752	25,855	35,137	42.4%
R04	42,804	14,612	1,039	1,841	1,924	19,416	23,388	45.4%	16,795	5,309	577	1,366	758	8,010	8,785	47.7%	59,599	19,921	1,616	3,207	2,683	27,427	32,172	46.0%

（注）端数処理の関係上、合計において合致しない場合があります。







５．財務状況

令和5事業年度貸借対照表　　（令和6年3月31日現在）　　（単位：百万円）

資産の部				負債及び資本の部			
勘定科目	R5年度 A	R4年度 B	増減額 A－B	勘定科目	R5年度 A	R4年度 B	増減額 A－B
流動資産	21,102	12,827	8,275	流動負債	37,023	36,732	291
固定資産	1,307,255	1,294,656	12,599	固定負債	370,301	388,246	△ 17,946
事業資産	1,288,073	1,282,721	5,352	福岡北九州高速道路債券	296,000	306,000	△ 10,000
（福岡高速道路）	909,046	906,590	2,456	長期借入金	67,086	75,066	△ 7,980
（北九州高速道路）	379,027	376,132	2,896	退職給与引当金	186	158	27
事業資産建設仮勘定	6,349	1,571	4,777	ETCマイレージ引当金	140	133	7
（福岡高速道路）	4,549	1,571	2,978	資産見返交付金	6,889	6,889	0
（北九州高速道路）	1,799	0	1,799				
有形固定資産	1,386	1,429	△ 44	特別法上の引当金等	694,807	656,919	37,889
その他	11,448	8,934	2,514	道路事業損失補てん引当金	35,909	33,157	2,752
				（福岡高速道路）	22,498	20,511	1,986
				（北九州高速道路）	13,411	12,646	765
繰延資産	555	649	△ 94	償還準備金	658,899	623,762	35,137
				（福岡高速道路）	522,984	496,939	26,045
				（北九州高速道路）	135,915	126,822	9,093
				（負債合計）	1,102,131	1,081,897	20,234
				基本金	225,593	225,057	536
				剰余金	1,187	1,178	9
				（資本合計）	226,780	226,235	546
資産合計	1,328,912	1,308,132	20,780	負債・資本合計	1,328,912	1,308,132	20,780

（注） 端数処理の関係上、合計において合致しない場合があります。

（資産の状況）

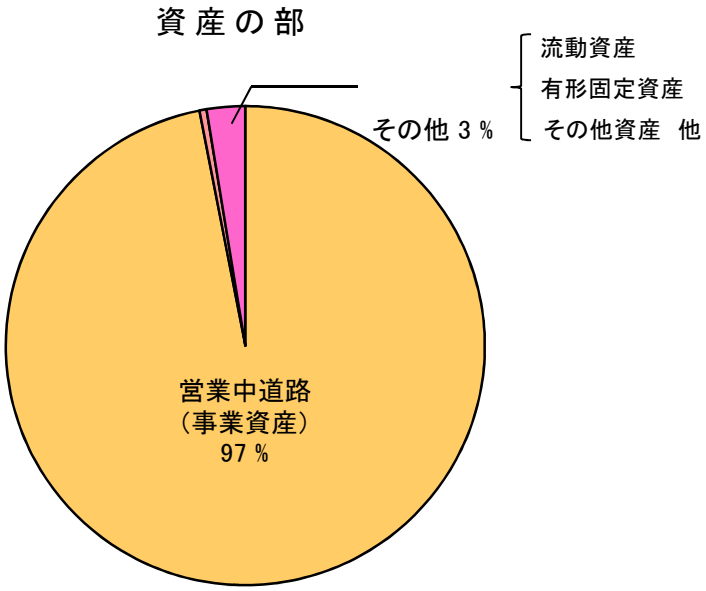
資産の総額は、1兆3，289億1，200万円となっています。このうち営業中道路の価額は1兆2，880億7，300万円で、資産全体の約97%を占めています。

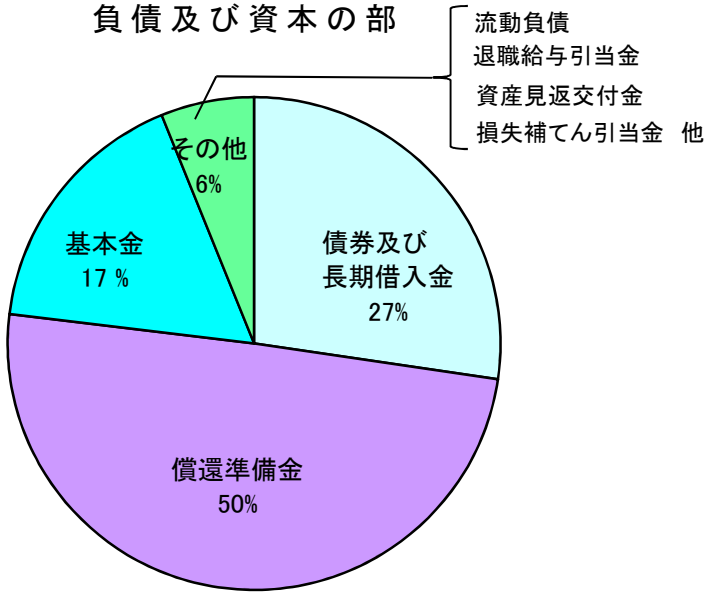
（負債及び資本の状況）

負債及び資本の総額は、1兆3，289億1，200万円となっています。主なものは、道路債券などの借入金が3，873億7，800万円（流動負債計上分の1年以内返済予定債券・借入金242億9，200万円及び固定負債計上分3，630億8，600万円の合計額）、営業中道路の建設・改良に投下した借入金の返済に充てた額（償還準備金）が6，588億9，900万円（福岡高速5，229億8，400万円、北九州高速1，359億1，500万円）、地方公共団体からの出資金が2，255億9，300万円となっています。

（注） 端数処理の関係上、合計において合致しない場合があります。

☆貸借対照表の内訳





6. 償還準備金の積立状況

福岡高速道路

（単位：百万円）

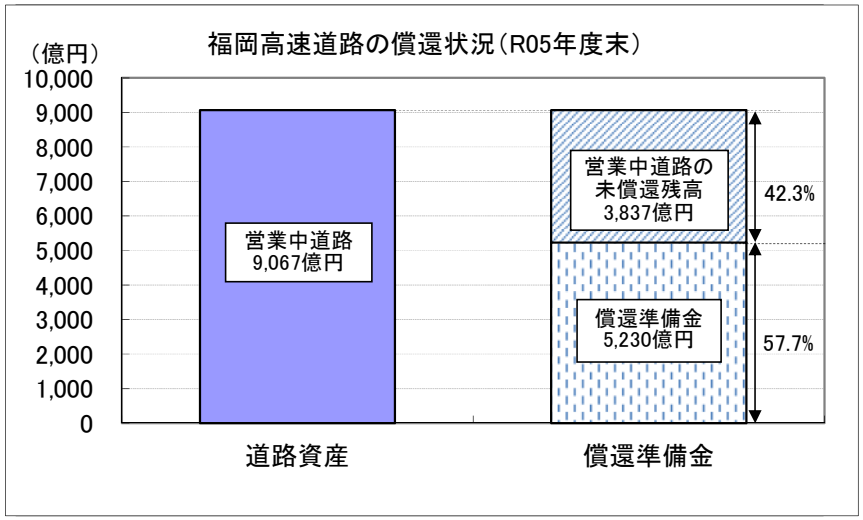
	営業中道路の資産総額 (A)	資産見返交付金 (B)	営業中道路（償還対象額） (C)=(A)−(B)	償還準備金 (D)	未償還残高 (C−D)	償還率 (D／C)×100	
R05	909,046	2,313	906,733	522,984	383,749	57.7%	(+2.7P)
R04	906,590	2,313	904,277	496,939	407,337	55.0%	

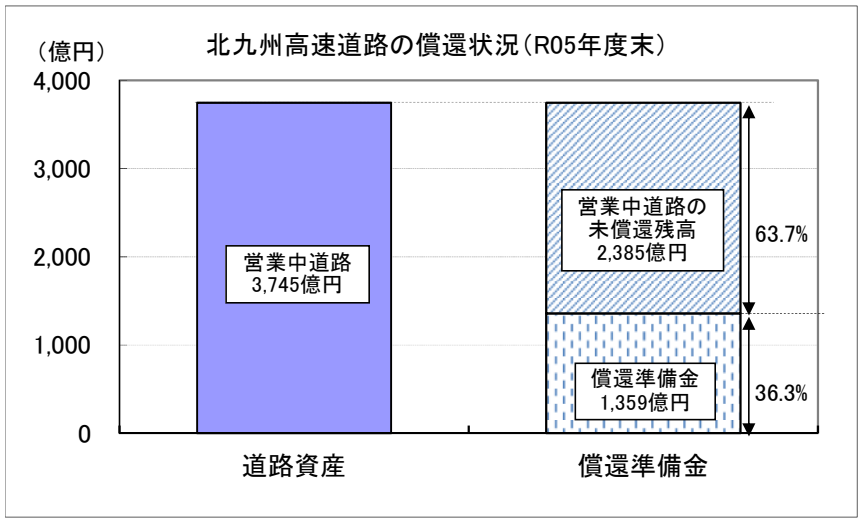
北九州高速道路

（単位：百万円）

	営業中道路の資産総額 (A)	資産見返交付金 (B)	営業中道路（償還対象額） (C)=(A)−(B)	償還準備金 (D)	未償還残高 (C−D)	償還率 (D／C)×100	
R05	379,027	4,576	374,451	135,915	238,536	36.3%	(+2.2P)
R04	376,132	4,576	371,556	126,822	244,733	34.1%	

「営業中道路（償還対象額）」とは、営業中道路の建設に投下した額の合計額（営業中道路の資産総額）から、償還を要しない資産見返交付金（補助金）を控除した額。
「償還準備金」とは、当該年度末までの償還準備金繰入額の累計額。
「未償還残高」とは、営業中道路について今後償還準備金を積み立てて、返済をしていくことになる金額。





※　端数処理の関係上、合計において合致しない場合があります。

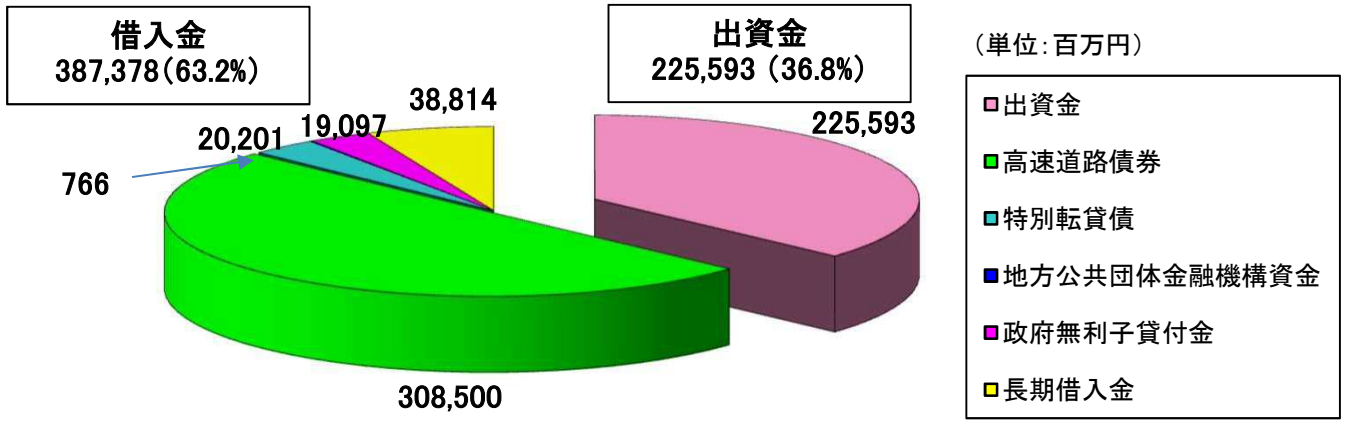
７．長期借入金の残高状況

令和５年度末借入金残高

（単位：百万円）

		全　　体			路線別内訳					
					福岡高速			北九州高速		
		R5年度	R4年度	増減額	R5年度	R4年度	増減額	R5年度	R4年度	増減額
		A	B	A－B	A	B	A－B	A	B	A－B
設立団体出資金		225,593	225,057	536	167,813	167,561	252	57,780	57,496	284
借入金	高速道路債券	308,500	321,400	△ 12,900	171,560	179,186	△ 7,626	136,940	142,214	△ 5,274
	特別転貸債	20,201	22,131	△ 1,930	17,669	19,694	△ 2,025	2,532	2,437	95
	地方公共団体金融機構資金	766	1,179	△ 414	600	950	△ 351	166	229	△ 63
	政府無利子貸付金	19,097	22,281	△ 3,183	16,159	18,856	△ 2,697	2,939	3,425	△ 486
	長期借入金	38,814	43,560	△ 4,746	8,297	13,289	△ 4,992	30,517	30,271	246
	計	387,378	410,551	△ 23,173	214,284	231,975	△ 17,691	173,094	178,576	△ 5,482
合計		612,971	635,608	△ 22,636	382,097	399,536	△ 17,439	230,874	236,072	△ 5,198

（注） 端数処理の関係上、合計において合致しない場合があります。



8. 償還計画と実績の対比

【令和5年度決算】

（単位：億円）

道路名		収益（a）	費用（b）				償還準備金繰入（a－b）	償還準備金	事業資産（交付金除く）	償還率（%）
			管理費（うち消費税）	損失補てん	金利	合計				
合　計	決算	610	201　（36）	28	30	259	351	6,589	12,812	51%
	計画	593	243　（29）	27	35	305	288	6,407	12,812	50%
福岡高速	決算	440	142　（28）	20	18	180	260	5,230	9,067	58%
	計画	415	169　（20）	19	23	211	204	5,055	9,067	56%
北九州高速	決算	170	59　（8）	8	12	79	91	1,359	3,745	36%
	計画	178	74　（8）	8	12	94	84	1,352	3,745	36%

※　端数処理の関係上、合計において合致しない場合があります。

●償還計画の対比方法

令和5年度決算（損益計算）と償還計画（収支計算）を比較するため、計画の値に調整を加えています。
償還計画は、福岡高速が令和3年3月の料金認可を、北九州高速が令和4年3月の料金認可を使用しております。
償還率は、償還準備金を事業資産から交付金を差し引いたもので除して算出しております。

●損失補てん引当金

損失補てん引当金は、個々の道路で将来事情の不可測性等により償還計画満了時に借入金等が残った場合に備えて、その補てんに充てるため料金収入の一部を積み立てているもので、道路整備特別措置法に定められています。
すなわち損失補てん金は、決算では費用として扱っていますが、将来のリスクに備え、公社の経営の安定を図る内部保留金としての性格を持っており、その額は借入金の返済余裕を表しています。

９．令和４・令和５事業年度福岡北九州高速道路公社キャッシュ・フロー計算書

（単位：億円）

	Ｒ５事業年度　Ａ	Ｒ４事業年度　Ｂ	増減額　Ａ－Ｂ
Ⅰ 営業活動によるキャッシュ・フロー			
当期償還準備金繰入	351.4	321.7	29.6
当期利益	0.1	0.2	△ 0.1
減価償却費	1.9	1.6	0.2
債券発行諸費等償却	1.0	1.1	△ 0.1
退職給与引当金等の増減額	0.2	△ 0.4	0.5
ＥＴＣマイレージ引当金の増減額	0.1	0.0	0.1
損失補てん引当金の増減額	27.5	26.8	0.7
債券利息	26.6	27.2	△ 0.6
借入金利息	1.8	2.5	△ 0.7
未収金(投資活動、財務活動を除く)の増減額	△ 9.9	△ 7.5	△ 2.4
未払金(投資活動、財務活動を除く)の増減額	△ 6.1	△ 10.6	4.5
その他の増減額	0.0	1.2	△ 1.2
小　計	394.5	364.0	30.5
利息の受取額	0.0	0.0	0.0
債券利息等の支払額	△ 26.6	△ 27.2	0.6
借入金利息の支払額	△ 1.9	△ 2.7	0.9
営業活動によるキャッシュ・フロー	366.0	334.0	32.0
Ⅱ 投資活動によるキャッシュ・フロー			
事業資産の取得による支出	△ 11.0	△ 7.5	△ 3.5
建設仮勘定の取得による支出	△ 53.5	△ 59.9	6.4
固定資産の取得による支出	△ 2.2	△ 2.8	0.6
事業資産等の売却による収入	0.0	0.9	△ 0.9
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 66.7	△ 69.3	2.5
Ⅲ 財務活動によるキャッシュ・フロー			
短期借入による収入	0.0	0.0	0.0
短期借入金の返済による支出	0.0	0.0	0.0
長期借入による収入	38.1	25.2	12.9
長期借入金の返済による支出	△ 140.9	△ 222.5	81.7
債券の発行による収入	24.9	69.8	△ 44.9
債券の償還による支出	△ 154.0	△ 150.0	△ 4.0
出資金の受入による収入	5.4	3.2	2.1
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 226.5	△ 274.3	47.8
Ⅳ 現金及び現金同等物に係る換算差額	0.0	0.0	0.0
Ⅴ 現金及び現金同等物の増加額	72.9	△ 9.6	82.4
Ⅵ 現金及び現金同等物期首残高	67.4	77.0	△ 9.6
Ⅶ 現金及び現金同等物期末残高	140.3	67.4	72.9

※端数処理の関係上、合計において合致しない場合があります。

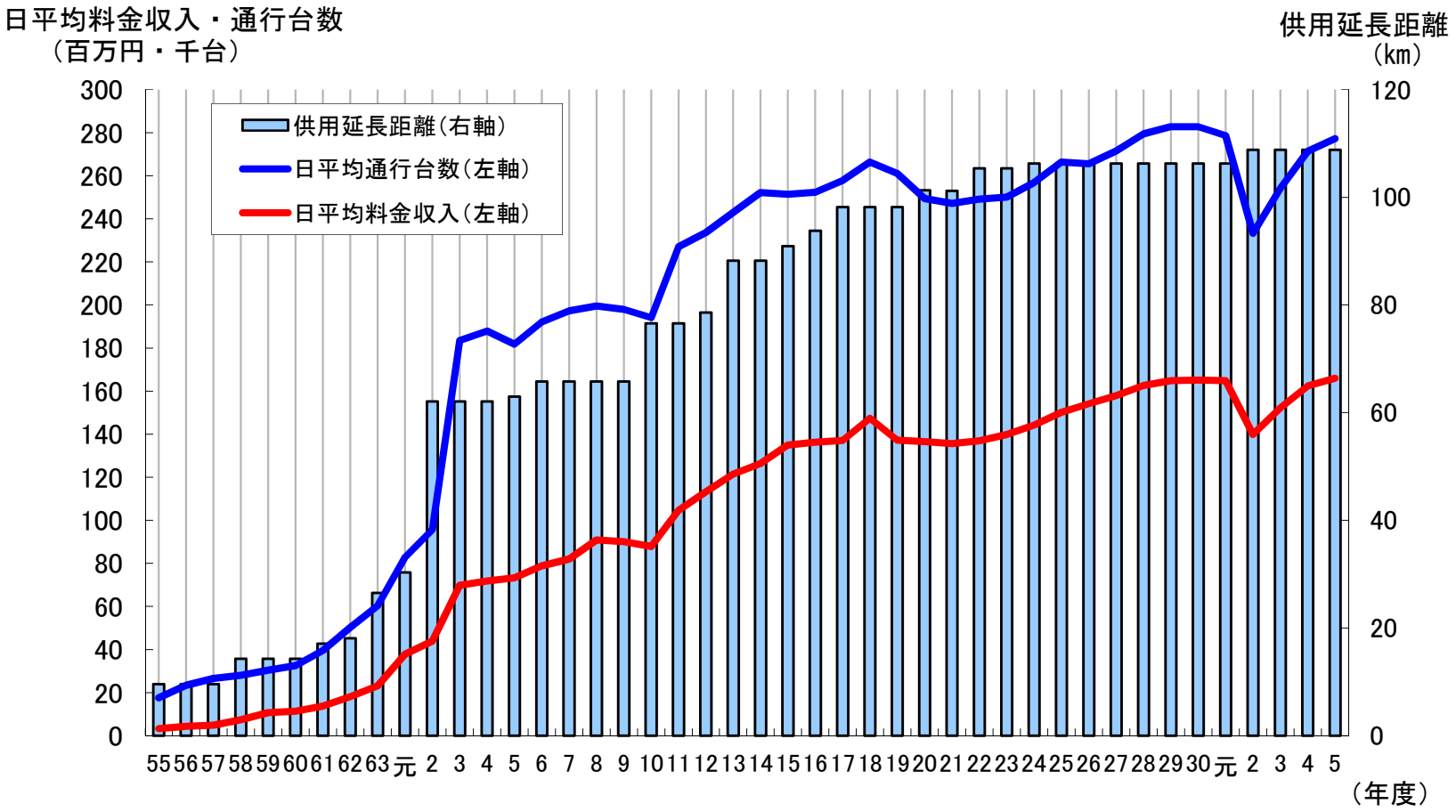
（注記）現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

現金・預金	140.3 億円	67.4 億円	72.9 億円
現金及び現金同等物	140.3 億円	67.4 億円	72.9 億円

１０．料金収入・通行台数・供用延長の推移（全体）

令和5年度

料金収入　608億円　　日平均料金収入　1．7億円　　日平均通行台数　27．7万台



供用延長距離
令和6年3月末現在 108．8km
料　　金
福岡高速
普通車　630円
大型車1，260円
北九州高速
普通車　520円
大型車1，050円

１１．供用実績

〔福岡高速道路〕

供用区分	供用年月日 料金改定日	供用延長（km）		供用区間	料　金（円）	
		区間	累計		大型車	普通車
一次供用	S55.10.20	5.9	5.9	香椎～東浜	400	200
	S57.3.27	－	5.9	貝塚入口		
	S58.6.30	－	5.9	貝塚出口		
二次供用	S58.10.6	1.5	7.4	東浜～築港	700	350
三次供用	S61.4.23	0.8	8.2	千鳥橋ＪＣＴ～呉服町		
四次供用	S62.11.6	1.0	9.2	築港～天神北	800	400
五次供用	S63.10.31	2.1	11.3	天神北～西公園		
				千鳥橋ＪＣＴ（渡り線）		
六次供用	H1.3.4	5.2	16.5	西公園～百道	1,000	500
				呉服町～榎田		
				豊ＪＣＴ～空港通		
	H1.10.1	－	16.5	料金改定（消費税3%転嫁）	1,030	510
	H2.12.25	－	16.5	名島本線料金所拡幅		
	H3.3.21	－	16.5	東浜西出口		
	H4.4.23	－	16.5	名島出入口		
	H4.7.1	－	16.5	東浜西入口		
七次供用	H5.4.2	0.9	17.4	香椎東～香椎		
八次供用	H6.4.4	2.8	20.2	榎田～月隈北		
	H9.6.1	－	20.2	料金改定（回数通行券料金）		
九次供用	H11.3.27	10.8	31.0	月隈～水城		
				貝塚ＪＣＴ～粕屋		
	H12.3.28	－	31.0	料金改定・貝塚入口	1,100	550
十次供用	H12.11.21	0.5	31.5	貝塚ＪＣＴ（渡り線）		
十一次供用	H13.10.13	5.3	36.8	百道～福重		
十二次供用	H14.3.10	1.9	38.7	粕屋～福岡ＩＣ		
	H15.5.1	－	38.7	料金改定	1,200	600
十三次供用	H15.5.1	2.7	41.4	月隈ＪＣＴ～板付		
十四次供用	H16.6.27	2.9	44.3	西月隈出入口・板付～野多目		
十五次供用	H18.3.26	4.4	48.7	野多目～堤		
十六次供用	H20.4.19	3.1	51.8	堤～野芥		
十七次供用	H23.2.26	4.1	55.9	野芥～福重		
十八次供用	H24.7.21	0.9	56.8	福重ＪＣＴ（渡り線）		
	H26.4.1	－	56.8	料金改定（消費税5%→8%）	1,230	620
	R1.10.1	－	56.8	料金改定（消費税8%→10%）	1,260	630
十九次供用	R3.3.27	2.5	59.3	香椎浜ＪＣＴ～ｱｲﾗﾝﾄﾞｼﾃｨ	1,260	630
備　　考	福岡高速全号線に、ETC導入（H18.4.1）					

（注）料金改定日は、一次供用を除き供用年月日の翌日です。但し、料金改定のみの場合は同日です。

〔北九州高速道路〕

供用区分	供用年月日 料金改定日	供用延長（km）		供用区間	料　金（円）	
		区間	累計		大型車	普通車
一次供用	S55.10.20	3.7	3.7	日明～篠崎北	300	150
二次供用	S58.10.6	3.2	6.9	篠崎北～若園	700	350
				東港出入口		
	S59.4.21	－	6.9	篠崎南出口		
三次供用	S61.12.2	2.0	8.9	若園～横代		
				篠崎南入口		
四次供用	S63.12.17	1.1	10.0	愛宕ＪＣＴ～下到津		
五次供用	H1.8.30	2.8	12.8	日明～戸畑（消費税3%転嫁）	720	360
六次供用	H2.3.31	1.0	13.8	戸畑～若戸		
				東港ＪＣＴ～小倉駅北		
				西港出口		
				東港出入口廃止		
七次供用	H3.3.31	31.8	45.6	春日～馬場山 一部区間料金（４号線）	300 400 500 600 720	150 200 250 300 360
	H5.4.1	－	45.6	料金改定	720	360
	H7.9.30	－	45.6	山路出入口	900	450
	H9.6.1	－	45.6	料金改定（回数通行券料金）		
八次供用	H12.7.26	1.5	47.1	長野～横代		
	H12.11.1	－	47.1	料金改定	1,000	500
九次供用	H13.7.2	2.4	49.5	枝光出入口～大谷出入口 大谷ＪＣＴ		
十次供用	H18.2.26	－	49.5	小倉東IC接続		
	H26.4.1	－	49.5	料金改定（消費税5%→8%）	1,030	510
	R1.10.1	－	49.5	料金改定（消費税8%→10%）	1,050	520
備　　考	九州縦貫自動車道八幡ICと北九州高速との接続ランプに金剛出口を新設（H17.3.31供用） 九州縦貫自動車道八幡ICと北九州高速との接続ランプに金剛入口を新設（H18.3.4供用） 北九州高速全号線に、ETC導入（H20.11.1） 北九州高速5号線と北九州市道東田出入口が接続（H22.12.15）					

（注）料金改定日は、一次、七次供用を除き供用年月日の翌日です。但し、料金改定のみの場合は同日です。